

赤煉瓦塀のある風景

—古賀市天神・小竹—



天神A氏宅

赤煉瓦の建物や塀はめっきり少なくなってきました。明治以降、洋風建築と共に文明開化の象徴のように赤煉瓦の建物があられました。関東大震災でその脆さが判り、次第に減少していきました。現在まで残っている建物は、明治期の西欧文化を伝えるものとして文化財の指定を受けて、観光地の目玉ともなっています。32号では、古賀市に残る赤煉瓦塀のある風景を歩いて見ました。



天神B氏宅

古賀市天神は、赤煉瓦塀が比較的多く残っているところです。赤煉瓦塀のある天神A氏宅は大正末から昭和初期の木造建築で、築80年ほど経過して風格も感じられます。赤煉瓦塀は長さ約36m、高さ164cm、門は183cmほどあります。これだけの長さの塀ですから、工事も二期にわたって行われたそうです。この家の前の家も赤煉瓦塀で囲まれていましたが平地になり、赤煉瓦塀の一部を残すのみとなりました。古い家を壊すと、赤煉瓦塀まで除かれて、ますます少なくなっています。



天神にはもう一軒赤煉瓦塀に囲まれた家があります。B氏宅は昭和初期の建物で、塀の高さ約165cm、赤煉瓦を積み上げただけでなく、塀の中央部分に網代状に煉瓦を組んで、塀に変化を持たせています。給水塔の土台も赤煉瓦で積まれています。



古賀神社の塀



小竹C氏宅(長い塀)

煉瓦塀は、地上から立ち上げたものと、コンクリートや石で土台を築いてその上に煉瓦を積んだものの二通りがあり、小竹には後者が多く見られます。写真小竹D氏宅の民家は、白い土壁、赤煉瓦塀に、梅の花、塀に絡んだ蔦と懐かしい風景を醸し出しています。尚、塀の頂部には、煉瓦の小口面や長平面を交互に使ったり角度を変えて組んだりして、煉瓦職人の工夫が出ています。

市内にはほかに、清滝・筵内などにも赤煉瓦塀が残っています。



小竹D氏宅